

PREX NOW



世界と関西をつなぐ VOL.275

特集：外国人社員とともに成長する秘訣

技術は
人の上に
人をつくらず。

株式会社三栄金属製作所（金属プレス加工、金型製作 大阪市生野区）

ベトナム人従業員 トゥン 氏と 代表取締役社長 文 敬作 氏



株式会社三栄金属製作所(金属プレス加工、金型製作 大阪市生野区) 代表取締役社長 文 敬作 氏

成果と能力によって日本人と平等に評価しています。

株式会社三栄金属製作所の文敬作です。弊社は2006年に従業員10名でスタートしました。今、従業員は100名となり、うち50人がベトナム人です。大阪の製造業は人材が不足しています。日本の高校生にいくらPRしても働きに来てくれません。海外の人に来てもらい、共生していくないと事業は継続できません。ベトナム人従業員を初めて採用したのは2007年です。金属プレスの仕事が増え技能実習生2名を採用しました。21歳と27歳の若いベトナム人でした。言葉もわからないのに、プレス作業ができるのか、不安でしたが、身振り手振りでコミュニケーションをとりながら、自分で工夫して作業ができる人材でした。2008年のリーマンショックの時には、ある会社がベトナム人のエンジニアを大量に解雇しているので雇ってほしいとコンサル会社から相談を受け、2名を採用しました。その後は毎年ベトナム人従業員を採用しています。初めのころに採用したベトナム人が辞めずに働いてくれているので、その後に採用する従業員のモデルとなり、次の世代が育つ循環ができています。

彼らは夢と覚悟をもって日本にやってきます。「日本に家を持ちたい」「日本で子供を育てたい」という彼らの気持ちに応える形で、会社の制度を整えてきました。そうして今の私があり、会社があり、社員がついてきてくれるのだと思います。トゥン君に工場長を任せたのは、私が18歳の時に親がやっていた工場です。古い工場ですが、専門家に見てもらうと、これだけできるのかと言われるほど、整理整頓が行き届いています。引き出しを開けると工具がそろっています。今ではトゥン君だけでなく、他のベトナムの従業員も品質管理のリーダーとなり活躍してくれています。トゥン君たちには、PREXの「ベトナム人リーダー育成研修」に参加してもらいました。

研修に参加する前は、トゥン君が自分のところに泣いて来たこともあります。日本人の社員が話を聞いてくれないことや苦労もあったようです。研修後は、ずいぶん考え方的成长し、良い、悪いの判断がつけられるようになっています。PREXの研修は、日程が決まっていて、仕事をしに来るので、そんなに研修に参加して大丈夫かという心配もありましたが、研修期間だと思って割り切って、「お前に託したぞ」と送り出すしかありません。託すとそれに応えてくれるもので。これからも日本の高校生が当社を就職先に選ぶことはあまり期待できません。ベトナム人従業員を採用して、いろいろな研修に参加させるのがいいです。意識が変わるのは間違ひありません。(次頁に続く→)



変える原動力でした。

教えたらできます。教えていないだけです。

(→)ベトナムでは、机の上のごみは下に落とします。机を拭いて掃除をするという習慣はないそうです。でも教えたらできます。教えていないだけです。きちんと教えて、平等に評価すると海外の方も働ける会社になります。人が集まるところに仕事が来ます。人がいなければ仕事は来ません。

【トゥン氏】

2022年にPREXの「ベトナム人リーダー育成研修」を受講しました。研修で学んだことを仕事に活かしています。3Sや5Sや報連相、オフィスをきれいにする課題に取り組み、ワークショップを開催して学んだことを工場のみんなと一緒に勉強しました。職場環境を改善するため、みんなで集まって意見を出し合い必要なところはすべて清掃しました。私の職場は以前よりもきれいになりました。働く人が快適に感じるよう、より多くの人に多くのスペースを確保できました。

同僚や部下との関係作りも大切にしています。みんなで交流したり、仕事や困っていることについてお互いに話し、助け合います。研修で学んだことは何でもまず自分で十分に理解してから、他の人にも伝えました。共に働く皆さんや会社にとって一番大切なことは、仕事に対する報連相だと学びました。

会社は私をサポートし、日本での生活と仕事について多くのことを教えてくれます。



ベトナム人リーダー育成研修は[こちら](#)→



整理整頓が行き届いた工場内



工場を案内するトゥン氏



「見えない利益」を

ヒグチ鋼管株式会社(パイプ加工事業、大阪市平野区)代表取締役 樋口 浩邦 氏とベトナム人従業員の皆さん

ベトナム人の従業員とよい関係を築けている理由は?

ヒグチ鋼管株式会社の山本です。

弊社では、毎日15分、就業時間中に日本語教室を行っています。今、参加しているのは18人。

一つのグループは日本人が教え、もう一つのグループは、日本語の得意なベトナム人従業員が、まだ日本に来て間もない従業員を教えています。テキストは、日本語検定合格に向けたものです。日本語の得意なベトナム人従業員は、「教える」ことで、より高いレベルの日本語検定に合格できます。

日本語教室は3年前にスタートしましたが、それまでは、ベトナム人従業員が増え、仕事をする中で真の意図やニュアンスが伝わらないという問題をずっと抱えていました。安全面でも、私たちは何が危ないか、伝えているつもりでしたが、日本語が理解できていないことから事故につながった事例もありました。個人へのその時その時の対処療法では、あくまで応急処置になってしまいます。

それなら仕事の時間を使ってでも、全員に基礎から勉強してもらおうと考え、テキストをそろえ、環境を整えました。その結果、仕事の上でのミスは減り、「見えない利益」につながりました。伝わらないことで話す時間が毎日かかり、その時間をトータルするといくらになるかということを考えると、見えない利益は大きいと思います。効果は、チームワークや生産性、カイゼン、すべてにプラスになりました。

マイナス面はひとつもありません。

もう一つ、ヒグチ鋼管がベトナム人従業員とよい関係を築けている理由は、会社とベトナム人従業員の架け橋となるキーマンがいることです。書類関係、組合対応、制度など事務的なことは自分が見ていますし、武田さんが、ベトナム人従業員の兄貴分的な存在で、採用から相談までベトナム人従業員のあらゆる面倒をみています。(次頁に続く→)



生み出す仕組みを。

日本語検定合格に向けて、毎日15分の日本語教室で勉強する様子

ベトナム人従業員との間に、笑顔の架け橋を。

(→)日本にいるベトナム人が増えており、ベトナム人従業員は、他社の待遇や状況などの情報が自然と耳に入ってきて、自分の置かれている状況と比べるようになっています。そうするとベトナム人従業員は「転職したい」「もっと待遇のいい会社があるのでは?」といった要望や不安を持つようになります。武田さんは、ベトナム語が話せ、ベトナム語で「他は他、うちはうちの考えがある」と納得させてくれる力があります。丁寧に、優しく、時には厳しく、相談にのってくれています。

ヒグチ鋼管株式会社の武田です。

弊社には、とても素直でいい従業員ばかり働いてくれています。採用の際には、「一緒に働きたい人」を採用しています。みんなきちんと挨拶できるし、何も言わなくてもやるべきことをやってくれます。

「挨拶」は、簡単なことと思うかもしれません、コミュニケーションの基本でとても大切なことです。ベトナム人従業員は何か聞かれたら、よくわからなくても「はい」と答えます。実際は、わかっていないことが多いです。

日本語教室で輪になって先輩が後輩を教えるしきみができたことで、うちのベトナム人従業員は、工場の中でも「わからなくても恥ずかしくない」、「間違ったことを言ってもいい」という気持ちを持てるようになりました。ベトナム人従業員と日本人社員がよい関係で仕事をするために普段心掛けているのは「笑顔」です。笑うことによって周りが明るくなり、人が集まってきます。



地域のフットサル大会に参加する従業員の皆さん→



入社3年の離職率は1%

藤本産業株式会社(東大阪市、ファスナー卸売) 代表取締役社長 藤本 翔平 氏(写真左から2番目)

グローバルな視点で最適を提供することを使命に。

藤本産業株式会社の藤本です。

弊社は、サステナブルな社会の実現に向けて女性リーダーを増やし、多様性の実現、ワークライフバランス等、社員が働きやすい取組を実践しており、入社3年の離職率は1%を保っています。年商は約60億円で、コロナ禍でも黒字を維持してきました。

貿易業で働いていた中国人2名は、弊社に入って、もう20年以上在籍しています。鉄関係の業界では、若くて力のある男性の採用が主流でしたが、日本の労働人口減少を受けて次第に採用が難しくなりました。そこで、海外の有能な男女の採用を始めました。2年前から増やしてきていますが、国籍にはこだわらず、優秀な人材を採用するようにしています。

外国人社員は、国によって文化や感受性が違います。きちんと言葉で伝えられるよう一人一人とコミュニケーションをとることを大事にするなど配慮しています。現在、外国人材15名(中国、台湾、マレーシア、タジキスタン、スリランカ、イス、ベトナム)が在籍していますが、4月から新たに5名(ネパール1名、中国3名、マレーシア1名)を採用する予定です。

外国人社員を採用して良かった点は多様な意見が出ることです。また、自立している方が多いので、自分たちで考えて行動する意思の強さがあると思います。

逆に苦労している点は、新たに採用された外国人社員の方がフレッシュな感性でいろいろアイデアを考えて提案されますが、それが既存の部署との融合がなかなか難しい点です。ただ、会社が成長していくためには必要だと感じています。



ロングインタビューはこちらからご覧下さい→



研修に託す想いが絆になる

第78回 八尾ものづくりカレッジ「外国人材 受け入れセミナー」で発表する荒木職員

ベトナム人従業員と日本企業を近づけるお手伝いを。

PREXの荒木です。弊財団のオリジナル事業「ベトナム人社員向け基礎研修(オンライン)」を2022年度から担当しています。この研修は、PREXが実施するほかの研修とは異なる点があります。

一つ目は、研修の「参加者」です。JICAの受託研修では、研修に参加するのは、開発途上国の行政官や経営者、経営幹部ですが、この研修に参加するのは、日本で働くベトナム人です。

また、この研修だけが、参加者の募集もPREXの仕事です。参加いただいた方からは、高い評価をいただいていますが、参加者を増やすことに苦労しています。2023年度からオンラインでも、講義だけでなく企業の取組がわかるような動画コンテンツを追加したり、広報先を広げたりと地道な努力を続けています。

昨年10月には、八尾市にご協力いただき、参加者募集につながるようにセミナーに登壇しました。外国人雇用の基礎情報を紹介した後「ベトナム人社員向け研修」の案内を行うことで、外国人雇用を考えている企業の皆様に、雇用の状況と、雇用後の社員の定着の重要性について参考になればと思い、企画しました。

研修を担当して感じているのは、研修に参加いただく外国人社員を雇用する企業の懐の広さです。人手不足が危機的状況にあり、ものづくりを継続するには外国人も日本人も一体となって会社を盛り上げていくような工夫をされています。こうした企業の皆様にお役に立つよう良い研修を作っていくたいと思います。

また、研修に参加いただいたベトナム人社員の方々の、自分が成長することへの貪欲さにも毎回驚かされます。研修に参加させてくれた上司や社長の想いに応えたいという気持ちや真剣さがこちらに伝わってきます。この研修への参加を通じて、社長とベトナム人社員の皆さんの絆が深まっていると感じることも、私のこの仕事への想いにつながってます。

(国際交流部 荒木 2022年8月よりダイキン工業株式会社から出向)

外国人を雇用する際、直面する言葉の壁はもちろんのこと、昇進や昇給の人事制度、職場を含む地域とのかかわり方、働くためのサポートなど、企業での様々なノウハウや工夫が盛りだくさんです。皆様ぜひご一読を！
ご意見・ご感想もお待ちしています。E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

カンボジアで実践されている3S活動を「3Sサミット」で紹介しました！

11月25日、大阪工業大学梅田キャンパスで開催された「3Sサミット」にて、カンボジアの同窓生による3S・カイゼン活動について、国際交流部長 瀬戸口が発表しました。「3Sサミット」は、3S活動を実践している全国の中小製造業などの皆さんのが集まり、相互の事例から自社のカイゼン活動に活かすことを目的として毎年開催されています。



11月～12月に実施した主な研修

●PREX 中央アジア同窓会フォローアップ

中央アジア(カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、ウクライナ)のPREX同窓生7名が参加。

●JDS特別プログラム 国際関係研究科(1)-1.【地方行政を学ぶフィールドトリップ】

キルギス、ラオス、カンボジア、ネパール、ブータン、モルディブ、ガーナ、ベトナムの留学生18名が参加。

●JICA中小企業振興政策(B)

アルジェリア、ウクライナ、ガーナ、北マケドニア、コートジボワール、ザンビア、モルドバ、モンテネグロの中小企業振興に携わる中央省庁、地方自治体等職員8名が参加。

●第44回関経連アセアン経営研修

カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、シンガポール、タイ、ベトナムの関経連のカウンターパート機関による推薦企業と経済団体幹部12名が参加。

研修レポートは
こちらから→



2/7 PREX×JICA関西 シンポジウム参加者募集中！

世界とともに歩む



国際協力=日本と世界をつなぐヒト・コト

2月7日(水)15:00～17:30

オンライン シンポジウムを開催します。
皆様のご参加をお待ちしています。

(申込締切2/2)

詳細、申し込みはこちらから↑



【基調講演】



「これからの 日本の国際協力: ODA70年を経て」

田中 明彦 氏
独立行政法人
国際協力機構(JICA)理事長

【パネルディスカッション】 世界とともに歩む
国際協力=日本と世界をつなぐヒト・コト

●コーディネーター 大野 泉 氏
政策研究大学院大学(GRIPS)教授



●パネリスト

○河添 靖宏 氏
海士町 郷づくり特命担当
グローカルコーディネーター



○遠山 晴香 氏

ダイキン工業株式会社
ダイキンフィリピン社出向
営業企画マネージャー



○半井 真明 氏

合同会社CHEZA 共同代表



○日比野 純一 氏

特定非営利活動法人工エフエムわいわい 理事



ブックレットご紹介 「多文化共生と 国際協力の出会い」

シンポジウムにパネリストとして登壇いただくエフエムわいわいの日比野純一氏がブックレットを出版されています。

こちらからご覧ください→



PREX NOW第275号(2024年2月発行)

編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター

専務理事:岡本 譲

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850

ウェブサイト:<https://www.prex-hrd.or.jp>

E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

企画制作:ユナイテッド・トウモロー

